2026 年 6 月

気象と気象用語

松山地方気象台

【 6 月の気象 】

6 月は梅雨に入る時期となり、1 年で最も降水量が多くなります。梅雨は、春から夏に移行する過程で、その前後の時期と比べて雨が多くなり、日照が少なくなる季節現象です。梅雨をもたらす梅雨前線は、太平洋高気圧に伴う湿潤・温暖な気団と、中国大陸の乾燥・温暖な気団やオホーツク海周辺の湿潤・冷涼な気団との間に形成されます。梅雨前線の北上に伴い九州や四国など西日本は、平年だと 6 月上旬までに梅雨入りします。なお、昨年の四国地方は 5 月に梅雨入りし、梅雨明けは統計開始以来最も早い 6 月 27 日頃でした。表 1 は、過去 5 年間の四国地方の梅雨入り・梅雨明けの記録です。

梅雨前線の活動が活発化する 6 月下旬から 7 月上旬頃にかけては、集中豪雨などで災害をもたらすことがあります。甚大な被害に見舞われた平成 30 年 7 月豪雨の後も、令和 5 年は 6 月 30 日～7 月 1 日にかけて中予や南予で大雨となり、土砂災害や浸水害が発生しています。また、前線が長く停滞すると、雨による被害だけでなく、低温や日照不足で農作物に被害が発生します。

表 1　過去 5 年間の四国地方の梅雨入り・梅雨明け

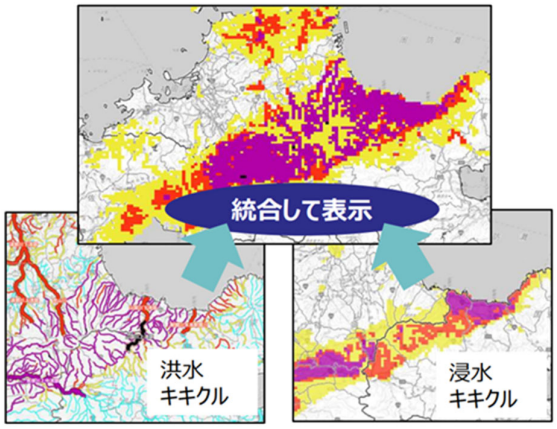
	梅雨入り	梅雨明け
2025年	5月17日頃	6月27日頃
2024年	6月17日頃	7月17日頃
2023年	5月29日頃	7月16日頃
2022年	6月11日頃	7月22日頃
2021年	5月12日頃	7月19日頃
平年	6月5日頃	7月17日頃
最早	5月12日頃（2021年）	6月27日頃（2025年）
最遅	6月26日頃（2019年）	8月2日頃（1954年）

【 気象用語 】新たな防災気象情報 ③

5 月 28 日午後から防災気象情報が大きく変更となっています。今回は、キキクルについて説明します。

大雨や土砂災害に関する情報が発表された際、危険度が高まっている地域を気象庁のホームページ「キキクル」で確認できますが、3 種類のキキクル（土砂キキクル、浸水キキクル、洪水キキクル）に、新たに浸水キキクルと洪水キキクルを統合した「大雨キキクル」が加わりました（図 1）。

河川氾濫等に関する警報等は、洪水予報河川のみを対象とした河川ごとの情報とし、これまで気象台が市町ごとに発表していた洪水警報・注意報は大雨に関する情報（大雨警報等）に整理されています。大雨キキクルは、浸水キキクルと洪水キキクルを重ねて表示するもので、避難等の判断にご利用ください。



気象庁 HP では現行の洪水キキクルと浸水キキクルも切り替えて閲覧可能

図 1　大雨キキクル（イメージ）

土砂災害については、大雨に関する情報から土砂災害警報等に区分されました。「土砂キキクル」は、警戒（赤色）が以前に比べて判定される領域が狭く、注意（黄色）から危険（紫色）へ変わるケースが多くなることに留意が必要です（図 2）。これは、レベル 3 警報の基準が見直され、レベル 4 危険警報と同じ基準の値※、となったためです。

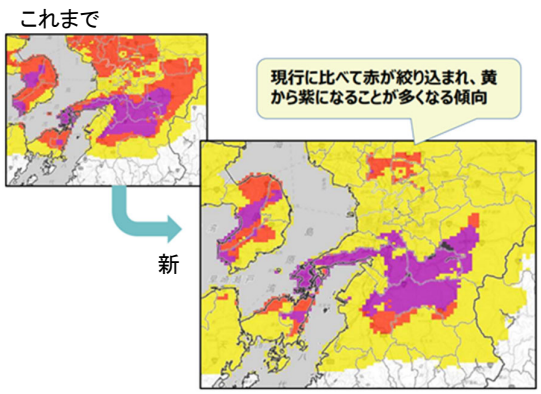


図 2　土砂キキクルの特性変化（イメージ）

※レベル 3 警報は 3 時間後にレベル 4 基準を超過する予想の場合に発表し、4～6 時間後でも予想可能な場合は発表します。レベル 4 危険警報は、2 時間後までにレベル 4 基準を超過する予想の場合に発表します。